

大垣地域の企業景況調査報告書

令和3年4月～6月期

大 垣 商 工 会 議 所
産 業 振 興 委 員 会

大垣地域の企業景況調査報告（令和３年４月～６月期）

◎ 調 査 要 領

当調査活動は、大垣管内の 300 事業所を対象に各業種の景気動向をはじめ、事業所が抱える経営課題やニーズを把握するため、四半期毎に「大垣地域の企業景況調査」を実施しています。

1. 調査対象期間

令和３年４月～６月期の実績・見込み、及び令和３年７月～９月期の見通しについて調査

2. 調査時点

令和３年６月

3. 調査対象

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の５業種

○調査対象事業所区分

区 別	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合 計
件 数	53	30	26	84	101	294
構成比	18.0	10.2	8.8	28.6	34.4	100

4. 調査方法

郵送又は FAX を利用。

5. 回収状況

回収件数 294 件 回収率 98%

6. DI（デフュージョンインデックス）景気動向指数

景気動向全体を表すように工夫された指数で、いわば景気の早見表

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

状況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

◎全産業の概要

○中小企業の業況は、前期と比較して改善したものの、来期は悪化の見込み。

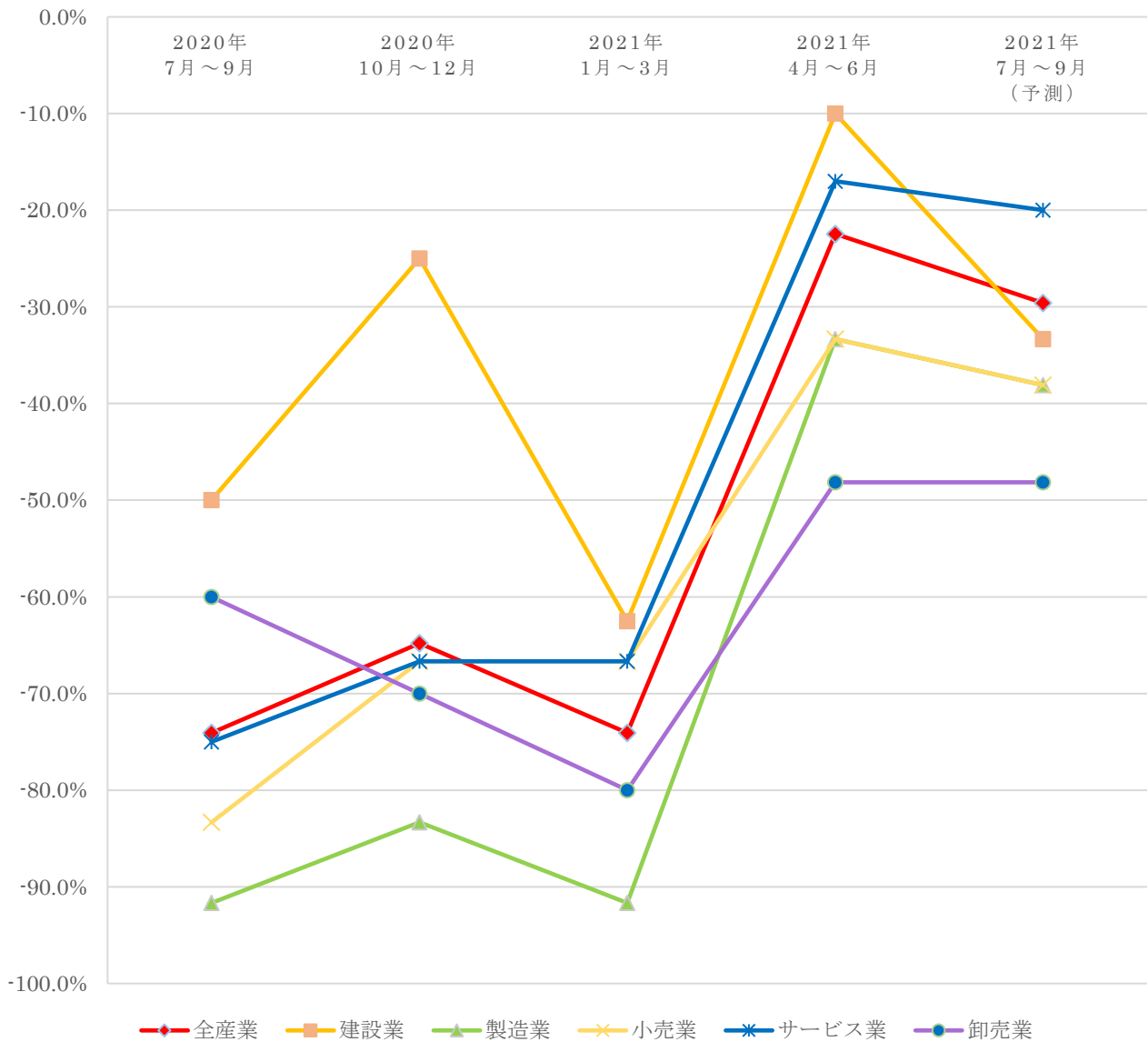
○全産業の業況判断 DI は、前期と比較し 51.7 ポイント改善した。

○産業別に見ると、建設業、製造業は、マイナス幅が大幅に改善した。

○来期は、建設業が大幅に悪化、製造業、小売業、サービス業が悪化、卸売業が横ばいの見込み。

1. 令和 3 年 4～6 月期の全産業の業況判断 DI は、前期▲74.1→今期▲22.4（前年比 51.7 ポイント増）とマイナス幅が大幅に改善した。
2. 全産業の売上 DI は、前期▲70.4→今期▲24.1（前期比 46.3 ポイント増）となり、マイナス幅が大幅に改善した。特に、製造業が前期▲100→今期▲38.1（前期比 61.9 ポイント増）、サービス業が前期▲58.3→今期▲9.0（前期比 49.3 ポイント増）と大幅に改善した。
3. 全産業の採算 DI は、前期▲70.4→今期▲24.5（前期比 45.9 ポイント増）と大幅に改善した。特に製造業が、前期▲83.3→今期▲9.4（前期比 73.9 ポイント増）となり、大幅に改善した。
4. 全産業の設備投資実施企業割合は、前期▲50.0→今期▲10.2（前期比 39.8 ポイント増）と大幅に改善した。産業別に見ると、サービス業と卸売業、小売業がほぼ横ばいであったが、建設業が前期▲75.0→今期▲16.7（前期比 58.3 ポイント増）、製造業が前期▲58.3→▲28.3（前期比 30 ポイント増）となり、大幅に改善した。
5. 売上単価 DI は、前期▲18.5→今期▲17.0 とほぼ横ばいとなり、商品仕入単価 DI も、前期 25.0→今期 25.5 とほぼ横ばいとなった。
6. 全産業の資金繰り DI は、前期▲22.2→今期▲20.1（前期比 2.1 ポイント増）となった。
長期資金借入難易度 DI は、前期▲5.6→今期▲5.8 とほぼ横ばいとなった。
短期資金借入難易度 DI は、前期▲5.6→今期▲2.4（前期比 3.2 ポイント増）となった。
7. 経営上の問題としては、新型コロナウイルス感染症による「需要の停滞」「消費者ニーズの変化への対応」が最大の課題となっており、全産業で上位にランクインしている。
業種別に見ると、建設業においては「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」と人材不足が次の課題となっているほか、製造業では「生産設備の不足・老朽化」、「原材料価格の上昇」、卸売業では「仕入単価の上昇」が課題となっている。

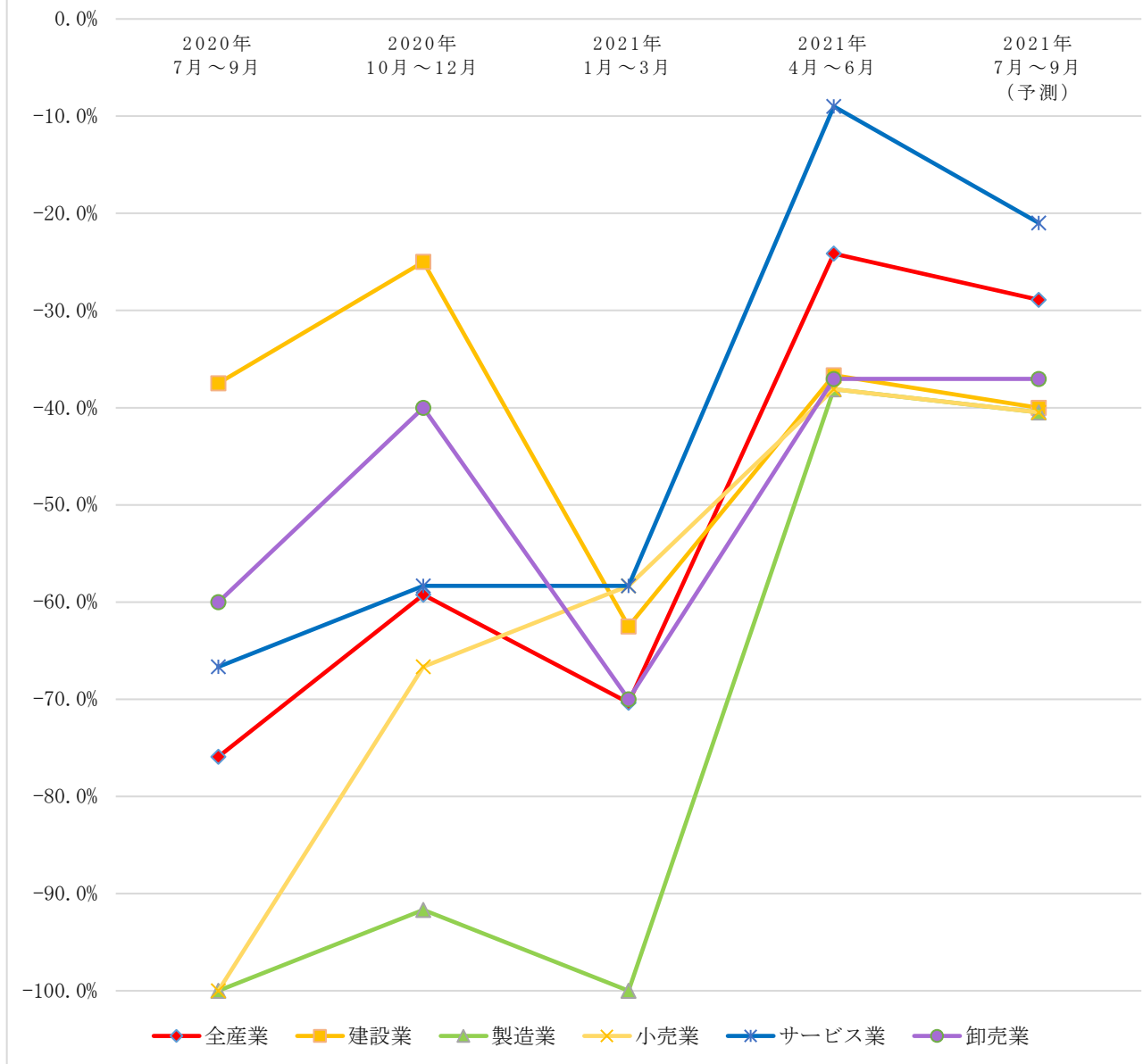
1. 業況判断DI



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-74.1%	-22.4%	-29.6%
建設業	-50.0%	-25.0%	-62.5%	-10.0%	-33.3%
製造業	-91.7%	-83.3%	-91.7%	-33.3%	-38.1%
小売業	-83.3%	-66.7%	-66.7%	-33.3%	-38.1%
サービス業	-75.0%	-66.7%	-66.7%	-17.0%	-20.0%
卸売業	-60.0%	-70.0%	-80.0%	-48.1%	-48.1%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

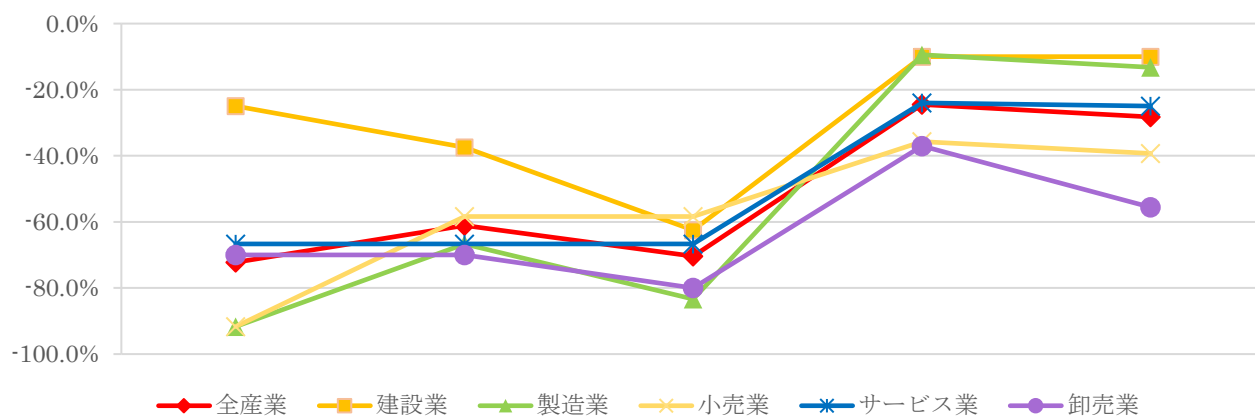
2.売上DI



	2020 年 7 月～9 月	2020 年 10 月～12 月	2021 年 1 月～3 月	2021 年 4 月～6 月	2021 年 7 月～9 月 (予測)
全産業	-75.9%	-59.3%	-70.4%	-24.1%	-28.9%
建設業	-37.5%	-25.0%	-62.5%	-36.7%	-40.0%
製造業	-100.0%	-91.7%	-100.0%	-38.1%	-40.5%
小売業	-100.0%	-66.7%	-58.3%	-38.1%	-40.5%
サービス業	-66.7%	-58.3%	-58.3%	-9.0%	-21.0%
卸売業	-60.0%	-40.0%	-70.0%	-37.0%	-37.0%

※2020 年 7 月～2021 年 3 月までの期間は、調査対象企業が 55 社

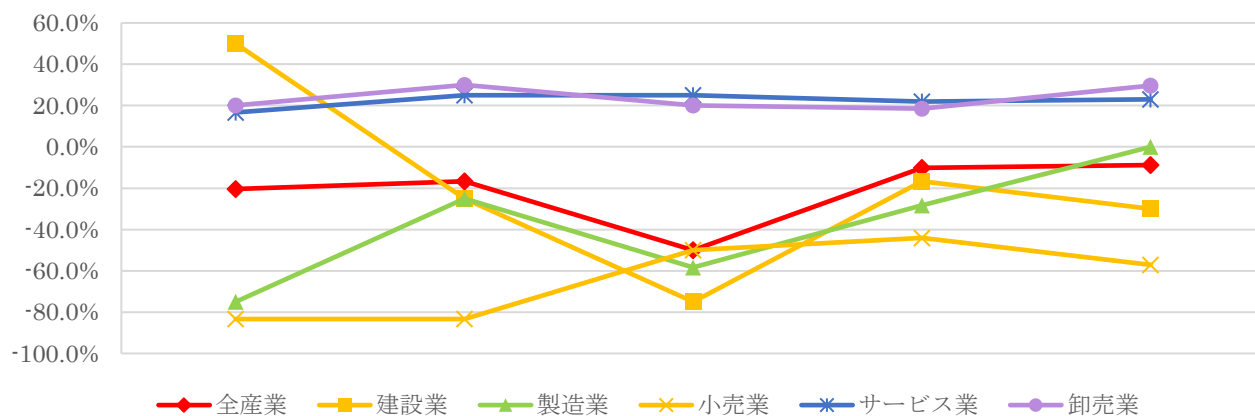
3.採算DI



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-72.2%	-61.1%	-70.4%	-24.5%	-28.2%
建設業	-25.0%	-37.5%	-62.5%	-10.0%	-10.0%
製造業	-91.7%	-66.7%	-83.3%	-9.4%	-13.2%
小売業	-91.7%	-58.3%	-58.3%	-35.7%	-39.3%
サービス業	-66.7%	-66.7%	-66.7%	-24.0%	-25.0%
卸売業	-70.0%	-70.0%	-80.0%	-37.0%	-55.6%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

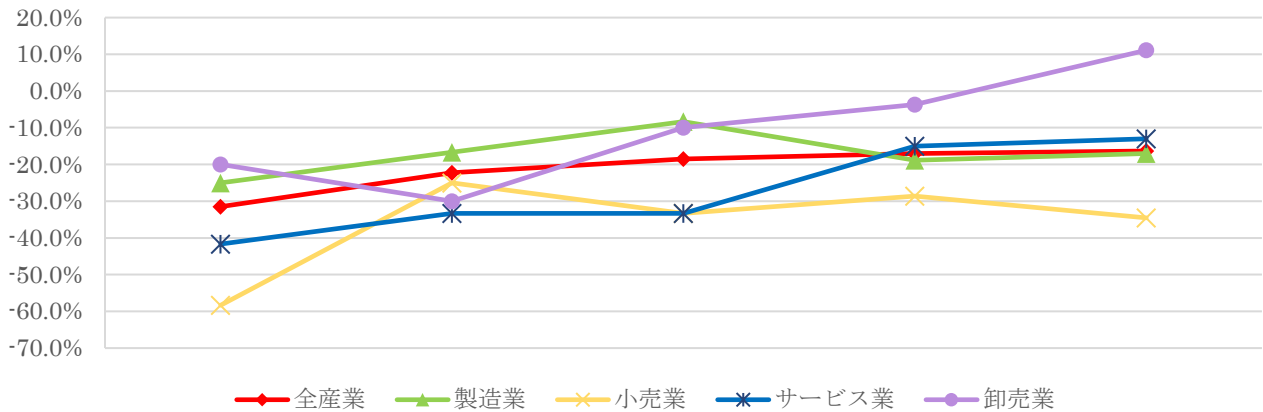
4. 設備投資実施企業割合



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-20.4%	-16.7%	-50.0%	-10.2%	-8.8%
建設業	50.0%	-25.0%	-75.0%	-16.7%	-30.0%
製造業	-75.0%	-25.0%	-58.3%	-28.3%	0.0%
小売業	-83.3%	-83.3%	-50.0%	-44.0%	-57.1%
サービス業	16.7%	25.0%	25.0%	22.0%	23.0%
卸売業	20.0%	30.0%	20.0%	18.5%	29.6%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

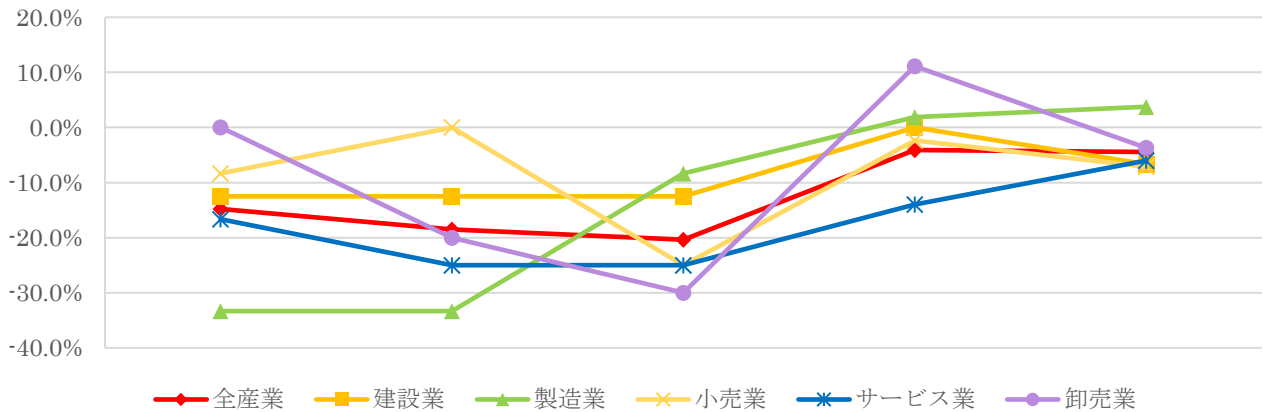
5. 価格動向DI「売上単価」



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-31.5%	-22.2%	-18.5%	-17.0%	-16.3%
製造業	-25.0%	-16.7%	-8.3%	-18.9%	-16.9%
小売業	-58.3%	-25.0%	-33.3%	-28.6%	-34.5%
サービス業	-41.7%	-33.3%	-33.3%	-15.0%	-13.0%
卸売業	-20.0%	-30.0%	-10.0%	-3.7%	11.1%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

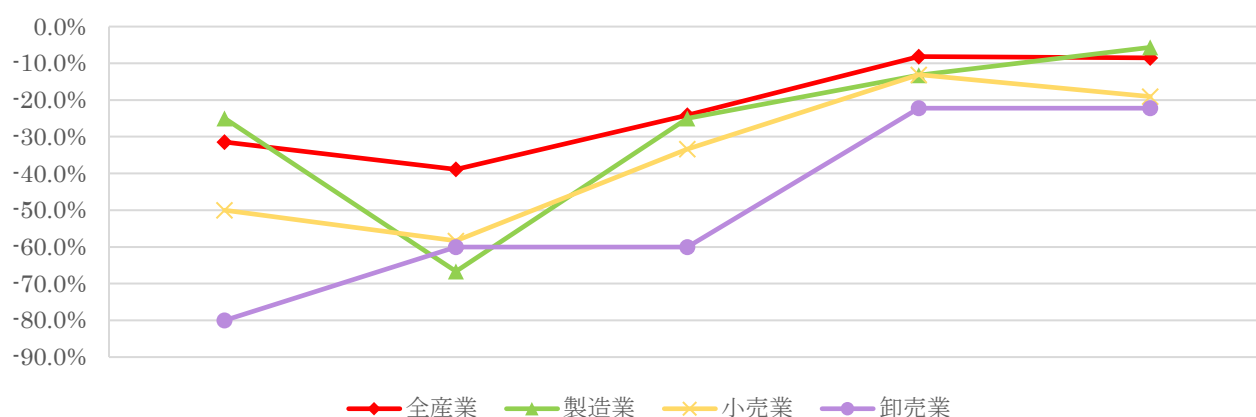
6. 雇用人員DI



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-14.8%	-18.5%	-20.4%	-4.1%	-4.4%
建設業	-12.5%	-12.5%	-12.5%	0.0%	-6.7%
製造業	-33.3%	-33.3%	-8.3%	1.9%	3.8%
小売業	-8.3%	0.0%	-25.0%	-2.4%	-7.1%
サービス業	-16.7%	-25.0%	-25.0%	-14.0%	-6.0%
卸売業	0.0%	-20.0%	-30.0%	11.1%	-3.7%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

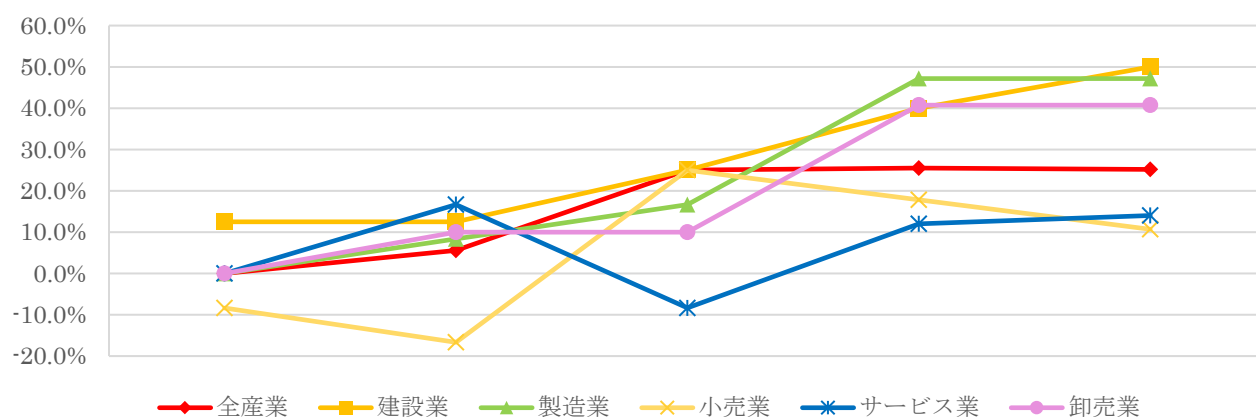
7. 在庫水準判断DI



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-31.5%	-38.9%	-24.1%	-8.2%	-8.5%
製造業	-25.0%	-66.7%	-25.0%	-13.2%	-5.7%
小売業	-50.0%	-58.3%	-33.3%	-13.1%	-19.1%
卸売業	-80.0%	-60.0%	-60.0%	-22.2%	-22.2%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

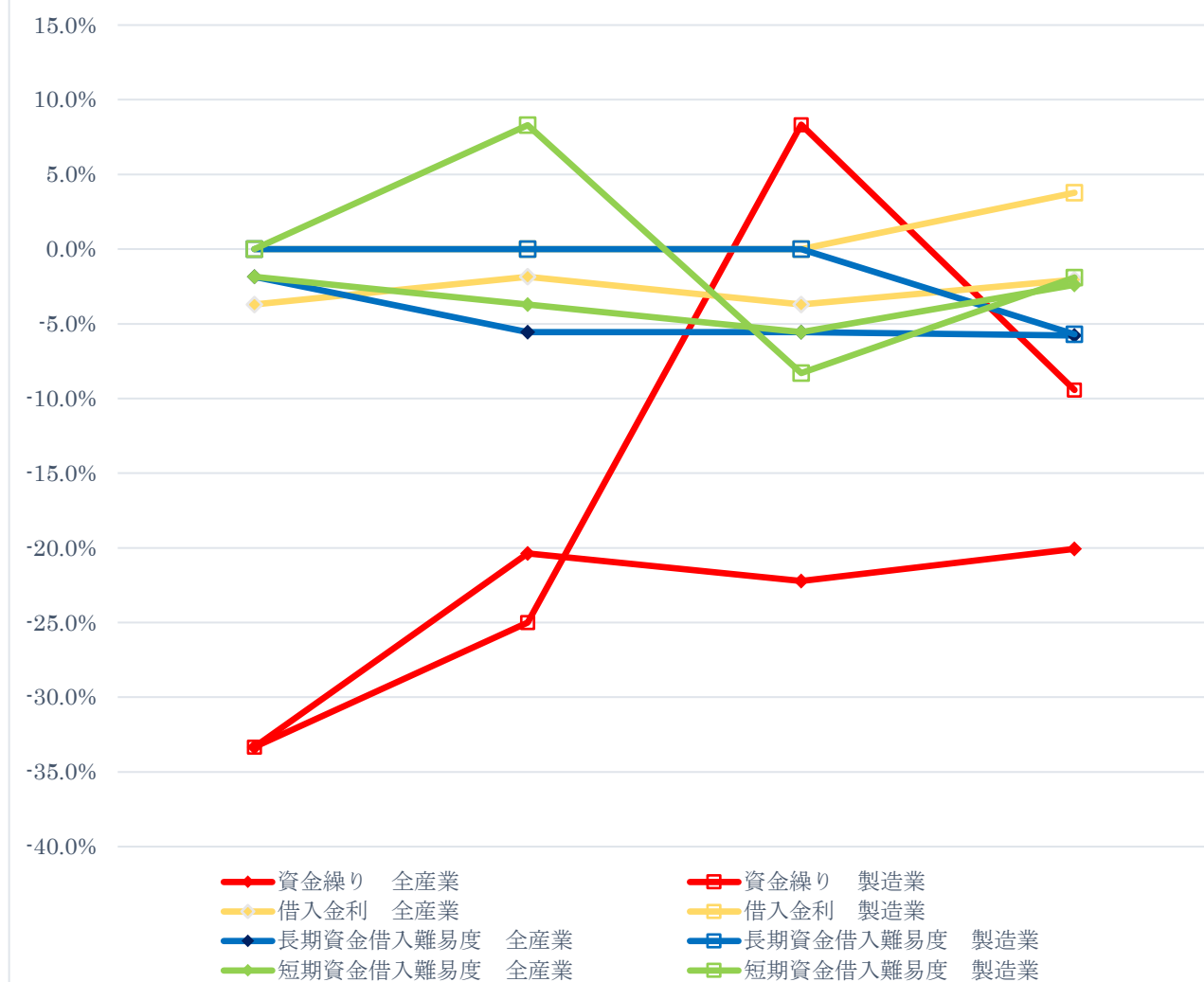
8. 価格動向DI「仕入単価」



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	0.0%	5.6%	25.0%	25.5%	25.2%
建設業	12.5%	12.5%	25.0%	40.0%	50.0%
製造業	0.0%	8.3%	16.7%	47.2%	47.2%
小売業	-8.3%	-16.7%	25.0%	17.9%	10.7%
サービス業	0.0%	16.7%	-8.3%	12.0%	14.0%
卸売業	0.0%	10.0%	10.0%	40.7%	40.7%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

9.金融の動向

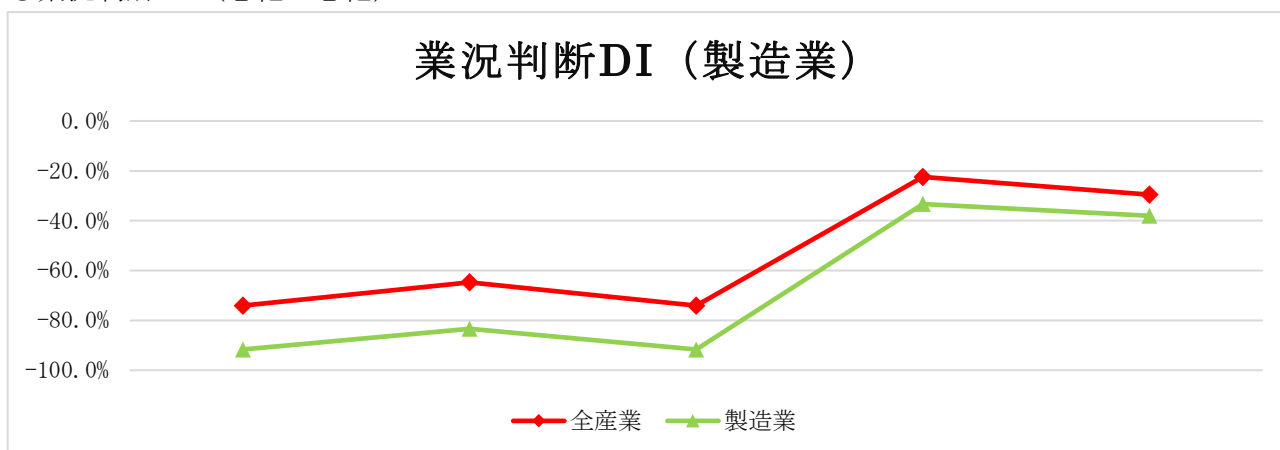


	2020 年 7 月～9 月	2020 年 10 月～12 月	2021 年 1 月～3 月	2021 年 4 月～6 月
資金繰り 全産業	-33.3%	-20.4%	-22.2%	-20.1%
資金繰り 製造業	-33.3%	-25.0%	8.3%	-9.4%
借入金利 全産業	-3.7%	-1.9%	-3.7%	-2.0%
借入金利 製造業	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
長期資金借入難易度 全産業	-1.9%	-5.6%	-5.6%	-5.8%
長期資金借入難易度 製造業	0.0%	0.0%	0.0%	-5.7%
短期資金借入難易度 全産業	-1.9%	-3.7%	-5.6%	-2.4%
短期資金借入難易度 製造業	0.0%	8.3%	-8.3%	-1.9%

※2020 年 7 月～2021 年 3 月までの期間は、調査対象企業が 55 社

◎製造業

○業況判断 DI（悪化－悪化）



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-74.1%	-22.4%	-29.6%
製造業	-91.7%	-83.3%	-91.7%	-33.3%	-38.1%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

今期の業況判断 DI は、（前期▲74.1）→今期▲22.4〔前期比 51.7 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は、▲29.6 とマイナス幅の拡大を予想している。

売上 DI は、（前期▲100.0）→今期▲38.1〔前期比 61.9 ポイント増〕と大幅な改善となった。来期は▲40.5 とマイナス幅の拡大を予想している。

採算 DI は、（前期▲83.3）→今期▲9.4〔前期比 73.9 ポイント増〕と大幅な改善となった。来期は▲13.2 とマイナス幅の拡大を予想している。

設備投資実施企業割合は（前期▲58.3）→今期▲28.3〔前期比 30.0 ポイント増〕と増加した。来期は 0 とさらなる増加を予想している。

経営上の問題点は、1 位は「需要の停滞」、2 位は「生産設備の不足・老朽化」、3 位は「原材料価格の上昇」、4 位は「製品（加工）単価の低下・上昇難」、5 位は「製品ニーズの変化への対応」であった。

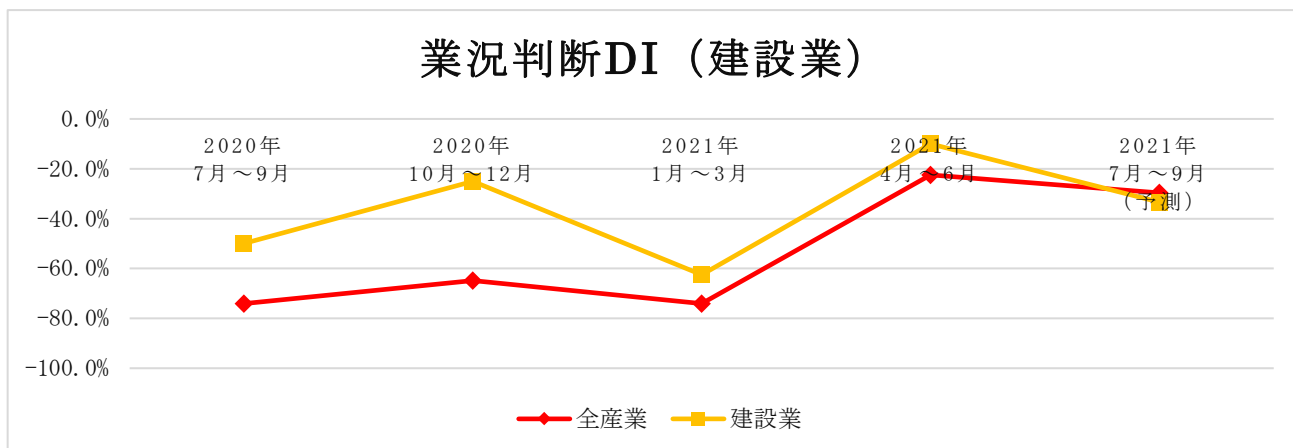
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2021 年 4 月～6 月	57 需要の停滞	40 生産設備の不足・老朽化	35 原材料価格の上昇	26 製品（加工）単価の低下・上昇難	26 製品ニーズの変化への対応
2021 年 1 月～3 月	22 需要の停滞	15 製品ニーズの変化への対応	9 生産設備の不足・老朽化	9 熟練技術者の確保難	5 従業員の確保難
2020 年 10 月～12 月	24 需要の停滞	12 製品ニーズの変化への対応	9 生産設備の不足・老朽化	7 熟練技術者の確保難	4 従業員の確保難
2020 年 7 月～9 月	24 需要の停滞	13 製品ニーズの変化への対応	9 人件費の増加	5 生産設備の不足・老朽化	4 熟練技術者の確保難

＜事業所の声＞

- ・新型コロナウイルスの感染状況の広がり次第で、今後の売上が見通しにくい。
- ・企業経営継続困難であり、来期の見通しは分かりません。
- ・製品出荷は多少回復傾向である。
- ・コロナ感染防止の対応が悪すぎて、景気回復の見通しが不透明。オリンピックのパッケージの商品をつくっているが、感染者が増えているので売上が伸びない。外出禁止をもっと徹底したり、ワクチンを多くの方に打てるような体制を整えてほしいが、政治に問題がある。
- ・仕事が少なくなり、見積中止が多い。
- ・コロナの長引く影響を受け、厳しい状況が続いています。
- ・原油価格の上昇に伴う原材料仕入単価の上昇とコロナ禍による需要の低迷により、厳しい状況が続いている。
- ・コロナ情勢における社会の変化があまりに予想できず、それにより需要が大きく変動する可能性があります。
- ・コロナで去年は売上が伸びたが、今年に入り落ち着いてしまっている。対策が必要と感じている。
- ・人の動きが弱くなることで、売上がとれていない。
- ・リーマンショック等、不況時に仕事を取り上げられる現象が起こる。発注元が当社へ外注せず、自社内製にする。この動きが予告なく秘密裏に行われる。よって下請の対応は遅れる。
- ・コロナの影響で昨年度より変わらず売上げは悪い。付帯施設投資をしたので好転を期待したい。
- ・特にコロナの影響を未だ感じていないが、じわじわとありそうで不安である。

◎建設業

○業況判断 DI（悪化－横ばい）



	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月	2021年 1月～3月	2021年 4月～6月	2021年 7月～9月(予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-74.1%	-22.4%	-29.6%
建設業	-50.0%	-25.0%	-62.5%	-10.0%	-33.3%

※2020年7月～2021年3月までの期間は、調査対象企業が55社

今期の業況判断 DI は、(前期▲62.5)→今期▲10.0〔前期比 52.5 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲33.3 とマイナス幅の拡大を予想している。

売上 DI は、(前期▲62.5)→今期▲36.7〔前期比 25.8 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲40.0 とマイナス幅の拡大を予想している。

採算 DI は、(前期▲62.5)→今期▲10.0〔前期比 52.5 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善さ

れた。来期は▲10.0 と横ばいを予想している。

設備投資実施企業割合は（前期▲75.0）→今期▲16.7〔前期比 58.3 ポイント増〕と増加した。来期は▲30.0 と減少を予想している。

経営上の問題点は、1 位は「民間需要の停滞」、2 位は「従業員の確保難」、3 位は「材料価格の上昇」、4 位は「官公需用の停滞」、5 位は「熟練技術者の確保難」であった。

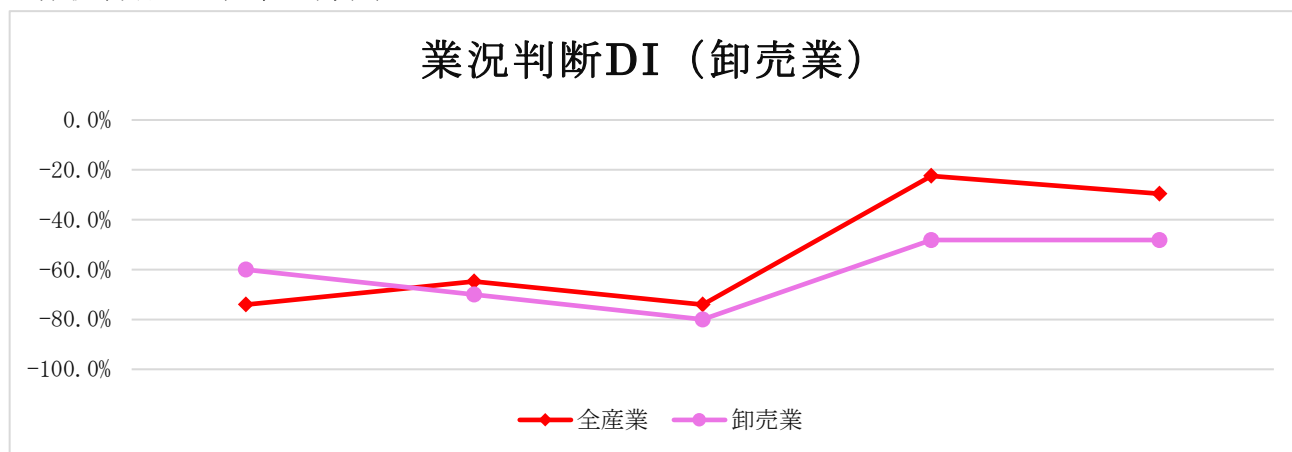
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2021 年 4 月～6 月	29 民間需要の停滞	24 従業員の確保難	20 材料価格の上昇	19 官公需用の停滞	16 熟練技術者の確保難
2021 年 1 月～3 月	12 従業員の確保難	7 熟練技術者の確保難	6 民間需要の停滞	6 官公需用の停滞	3 材料価格の上昇
2020 年 10 月～12 月	9 熟練技術者の確保難	7 従業員の確保難	6 民間需要の停滞	6 官公需用の停滞	3 人件費の増加
2020 年 7 月～9 月	10 熟練技術者の確保難	7 従業員の確保難	5 民間需要の停滞	5 官公需用の停滞	3 人件費の増加

<事業所の声>

- ・ウッドショックによる、どこまで価格 UP し、どこまで確保できるか、皆目検討がつかない（見積できない、着工できない）。
- ・官民では、引合がない大型物件、工事がなく、他部材に変わる。

◎卸売業

○業況判断 DI（悪化－好転）



	2020 年 7 月～9 月	2020 年 10 月～12 月	2021 年 1 月～3 月	2021 年 4 月～6 月	2021 年 7 月～9 月 (予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-80.0%	-22.4%	-29.6%
卸売業	-60.0%	-70.0%	-80.0%	-48.1%	-48.1%

※2020 年 7 月～2021 年 3 月までの期間は、調査対象企業が 55 社

今期の業況判断 DI は、（前期▲80.0）→今期▲48.1〔前期比 31.9 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期も、▲48.1 と横ばいを予想している。

売上 DI は、(前期▲70.0)→今期▲37.0〔前期比 33.0 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期も▲37.0 と横ばいを予想している。

採算 DI は、(前期▲80.0)→今期▲37.0〔前期比 43.0 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲55.6 とマイナス幅の拡大を予想している。

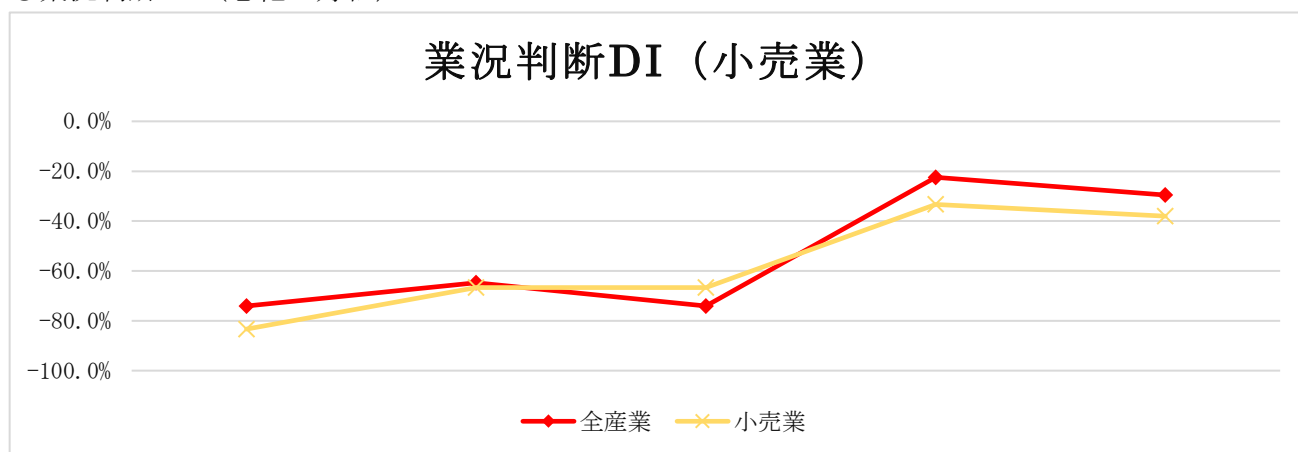
設備投資実施企業割合は(前期 20.0)→今期 18.5 と減少した。来期は 29.6 と増加を予想している。

経営上の問題点は、1 位は「需要の停滞」、2 位は「仕入単価の上昇」、3 位は「人件費以外の経費増加」、4 位は「販売単価の低下・上昇難」、5 位は「人件費の増加」であった。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2021 年 4 月～6 月	53 需要の停滞	22 仕入単価の上 昇	12 人件費以外の 経費増加	11 販売単価の低 下・上昇難	9 人件費の増加
2021 年 1 月～3 月	22 需要の停滞	6 事業資金の借 入難	5 大企業の進出 による競争の 激化	5 小売業の進出 による競争の 激化	3 販売単価の低 下・上昇難
2020 年 10 月～12 月	18 需要の停滞	9 販売単価の低 下・上昇難	4 仕入単価の上 昇	4 金利不可の増 加	4 人件費の増加
2020 年 7 月～9 月	21 需要の停滞	6 人件費の増加	5 小売業の進出 による競争の 激化	5 事業資金の借 入難	5 金利不可の増 加

◎小売業

○業況判断 DI (悪化－好転)



	2020 年 7 月～9 月	2020 年 10 月～12 月	2021 年 1 月～3 月	2021 年 4 月～6 月	2021 年 7 月～9 月(予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-74.1%	-22.4%	-29.6%
小売業	-83.3%	-66.7%	-66.7%	-33.3%	-38.1%

※2020 年 7 月～2021 年 3 月までの期間は、調査対象企業が 55 社

今期の業況判断 DI は、(前期▲66.7)→今期▲33.3〔前期比 33.4 ポイント増〕とマイナス幅が大

幅に改善された。来期は▲38.1とマイナス幅の拡大を予想している。

売上DIは、(前期▲58.3)→今期▲38.1〔前期比20.2ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲40.5とマイナス幅の拡大を予想している。

採算DIは、(前期▲58.3)→今期▲35.7〔前期比22.6ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲39.3とマイナス幅の拡大を予想している。

設備投資実施企業割合は(前期▲50.0)→今期▲44.0〔前期比6.0ポイント増〕と縮小した。来期も▲57.1と減少を予想している。

経営上の問題点は、1位は「消費者ニーズの変化への対応」、2位は「需要の停滞」、3位は「店舗の老朽化」、4位は「販売単価の低下・上昇難」、5位は「同業者の進出」であった。

	1位	2位	3位	4位	5位
2021年 4月～6月	99 消費者ニーズ の変化への対 応	97 需要の停滞	33 店舗の老朽化	30 販売単価の低 下・上昇難	27 同業者の進出
2021年 1月～3月	20 需要の停滞	15 消費者ニーズ の変化への対 応	7 販売単価の低 下・上昇難	4 従業員の確保 難	4 購買力の他地 域への流出
2020年 10月～12月	25 消費者ニーズ の変化への対 応	14 需要の停滞	8 販売単価の低 下・上昇難	4 購買力の他地 域への流出	3 その他 (コロナの影 響)
2020年 7月～9月	16 需要の停滞	12 その他 (コロナの影 響)	12 消費者ニーズ の変化への対 応	6 購買力の他地 域への流出	4 販売単価の低 下・上昇難

<事業者の声>

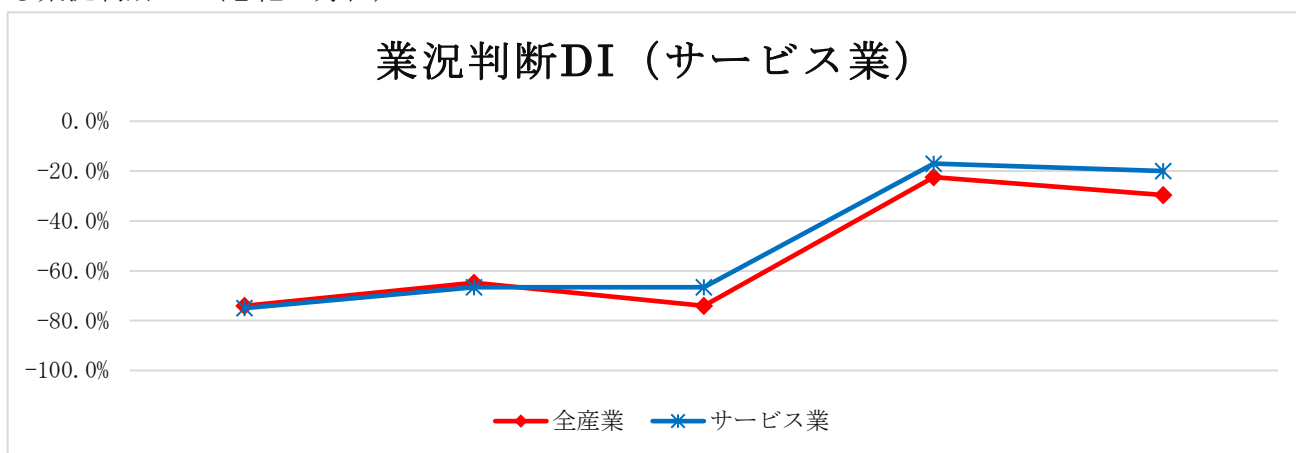
- ・イベント中止のため、撮影業務が減少し、他でカバーできていない。物販の販売に力を入れているが利幅が少なく、経営に貢献していない。
- ・コロナ禍で飲食店への補助金があるが、酒屋さんは前年度の売上が半分以下にならないともらえないという厳しい状況。ギリギリ半分の売上であればもらえないので、それではやっていけない。
- ・仕入れの値上がりでコロナ不況、厳しいです。
- ・コロナ禍でも顧客対応する機会が存在するため、今まで以上にお客様に寄り添う姿勢が必要となる。
- ・コロナ禍の影響は現状もさることながら、年末年始にかけて影響が大きくなるようです。
- ・コロナ禍によって小売・卸売共に売上が減少し、厳しい状況です。
- ・折込が一昨年比で80%減少、まん延防止などの影響で、イベントの中止、営業時間短縮の影響もあり、非常に厳しい。
- ・外出自粛の影響がかなり出ている。前年より売上、客数は増えたが、微増のため経営は厳しい。
- ・コロナ関連でマスクや使い捨て手袋の価格が下がってきた。来場者や企業向けの販売が下げ止まっている。(一段と減少)
- ・コロナ禍も一巡し、今期は巣ごもり需要の反動減を見込んでおります。今後の感染状況や緊急事態宣言等による営業への影響など懸念しております。
- ・昨年より好調ではありますが、昨年の数字がそもそも低水準なので、一昨年と比較しながら改善

策を取り組んでいきたいです。

- ・駅通り、特に郭町商店街はシャッターが降りている店が多く、コロナと合わせて益々、人員が少なく、ヤナゲン閉店から売上も10分の1くらい低下しました。大型店の進出、駅前通りはスーパーもなく、毎月赤字です。
- ・車両販売の低迷による収益減少。今後の車両販売に注力する。
- ・コロナの影響により客数減少。和菓子屋は、冬期は強いが、夏期はこれから大変です。
- ・コロナの影響で客の動向が全く読みづらくなっている。今はワクチン接種の拡大に期待してます。
- ・コロナ関係にて寺院行事の縮小により、商品の販売減少が目立ちます。
- ・コロナ禍で行事がすべて中止となり（途中、中止）感染が収まるのを祈るばかりです。
- ・支出が収入を上回り、資金が底をつきそう。
- ・金融関係のスムーズに借入をしやすい状態になると良い。コロナ関係にて市況が冷え込んでお客様の来店数が少ない。
- ・コロナ終息後、新事業、新分野への事業刷新へ全力に取り組んでおります。
- ・コロナ禍影響で人流が少なく、売上、利益共ダウンで非常に厳しい経営状況が続いております。

◎サービス業

○業況判断DI（悪化－好転）



	2020 年 7 月～9 月	2020 年 10 月～12 月	2021 年 1 月～3 月	2021 年 4 月～6 月	2021 年 7 月～9 月 (予測)
全産業	-74.1%	-64.8%	-74.1%	-22.4%	-29.6%
サービス業	-75.0%	-66.7%	-66.7%	-17.0%	-20.0%

※2020 年 7 月～2021 年 3 月までの期間は、調査対象企業が 55 社

今期の業況判断 DI は、（前期▲66.7）→今期▲17.0〔前期比 49.7 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲20.0 とマイナス幅の拡大を予想している。

売上 DI は、（前期▲58.3）→今期▲9.0〔前期比 49.3 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲21.0 とマイナス幅の拡大を予想している。

採算 DI は、（前期▲66.7）→今期▲24.0〔前期比 42.7 ポイント増〕とマイナス幅が大幅に改善された。来期は▲25.0 とマイナス幅の拡大を予想している。

設備投資実施企業割合は（前期 25.0）→今期 22.0〔前期比 3.0 ポイント減〕と減少した。来期は 23.0 と増加を予想している。

経営上の問題点は、1 位は「利用者のニーズの変化への対応」、2 位は「需要の停滞」、3 位は「従業員の確保難」、4 位は「熟練技術者の確保難」、5 位は「利用料金の低下・上昇難」であった。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2021 年 4 月～6 月	102 利用者のニーズの変化への対応	93 需要の停滞	48 従業員の確保難	34 熟練技術者の確保難	33 利用料金の低下・上昇難
2021 年 1 月～3 月	19 需要の停滞	10 利用料金の低下・上昇難	9 その他（SNS の活用、営業時間の短縮）	8 利用者のニーズの変化への対応	3 従業員の確保難
2020 年 10 月～12 月	21 需要の停滞	12 利用者のニーズの変化への対応	8 利用料金の低下・上昇難	4 従業員の確保難	4 その他（コロナの影響）
2020 年 7 月～9 月	17 需要の停滞	12 その他（コロナの影響）	11 利用者のニーズの変化への対応	5 利用料金の低下・上昇難	5 店舗施設の老朽化

<事業者の声>

- ・コロナ禍の拡大で先行きは最暗闇です。ワクチン接種が行き渡るまで店がもつかどうか。
- ・コロナ禍による景気低迷によって、全事業で売上が停滞している。
- ・会計基準が変更になった（収益認識基準）ことの影響があります。
- ・協力金が出ない飲食店のため、経営状態は最悪。この状況がまだ続くようでは、倒産の危機は免れない。借入しても返済の目途がたたない。
- ・コロナ感染拡大が経営に大きく影響し、先行きが不透明な状況です。
- ・短期の見通しは出来ていますが、長期で見ると不透明感が増しています。コロナ禍で動画制作の依頼が増えているので、軸として考えたい。
- ・コロナによって我々の業界は昨年に続き、ことごとくキャンセル（イベント他）国、県において適切な援助をお願いしたいものです。
- ・大きな収入減により設備投資が滞っている状態です。
- ・オンライン対応と **You Tube** 戦略で、集客、採用、広告面を大幅に改善できています。
- ・少しずつである程度回復しつつあるも利用者の質が落ちてきている気がする（ゴミのポイ捨てなど）
- ・とにかく飲食業におけるコロナ防止の負担が長期化しすぎており、自由に商売ができないことへのストレス。協力金の振込が遅延していることへの不安。
- ・慢性的な人員不足のために従業員に対してオーバーワークになっていますが業界が縮小傾向のため、なかなか新卒、中途含め採用が難しくなっています。コロナの影響はもうあまり感じられないので、引き続き、感染症対策を行いながら、安心安全のサービスを心掛けております。
- ・仕事の問い合わせが増加しているが、従業員の確保が難しく、受注を断っている。募集の人件費の上昇が懸念される。また、外注先がコロナで減少したことにより外注費が上昇している。
- ・前期は厳しい状況でしたが、今期は好転しました。
- ・コロナによる売上減が大きく国や行政の対策に期待したい。
- ・「まん延防止」のため、お客様が来て下さらない。
- ・営業を止められるのは苦しい。営業してもコロナで人が動かないのは苦しい。
- ・コロナ禍による営業の規制により開店休業状態。
- ・リモートワークの需要が今年の秋くらいまでであるでしょうが、これから先が厳しいとみています。

- ・現状は横ばい。今後の状況を好転させるための新サービスを考案中。もうひと伸びする力を養っていききたい。
- ・IT化をもっとすすめていく状況に直面している。一応考えているが、中長期的には需要は競合が強くなるので、投資の妥当性を慎重に考えるタイミングである。
- ・販路の開拓などの対策を要する。
- ・小さな飲食店です。売上の減少は協力金のおかげでトントンの感じです。パートのスタッフはあまり減らさず来てもらっています。その分、自分はワクチンのパートとか行った方が良いかと思っています。
- ・昨年よりは回復している様に感じるが、そろそろ体力的（金銭的、精神的）な部分が限界に近い同業他社と仕事を取り合っている状況。
- ・コロナ、まん延防止下で酒類提供が NG となり、夜の居酒屋は実質的に休業。ランチのみでは売上が壊滅状態となっています。
- ・コロナ禍で利用者の（宴会、仕出し）の激減。
- ・もうコロナ禍になって1年以上経過しているので、新しいことも考えつつ、今は耐える時だと思っています。